

修 士 論 文 の 和 文 要 旨

電気通信大学大学院		電気通信学研究科	博士前期課程	人間コミュニケーション学専攻
氏 名	泉 田 祐 樹			学籍番号 0536001
論 文 題 目	W E B マイニングと心理実験による共感覚メタファーの分析			
<p>要 旨</p> <p>比喩に関する研究は盛んに行われているが、共感覚メタファー表現はその一種として扱われているにすぎず、詳細な分析も感覚間の写像の方向性に着目した研究が多い。近年、共感覚メタファーを共起関係の観点から分析している研究があるが、共感覚メタファーを一概にメトニミーとして扱うことには問題があると指摘されている (Taylor, 2003)。また、Lakoff & Johnson (1980) は、起点領域の概念が目標領域へ選択的に写像されると、目標領域の何らかの要素が強調され、同時に何らかの要素が隠されると言う効果がみられると指摘している。さらに、近年では内海・坂本 (2006) が、形容詞メタファーに関して、形容詞から仲介カテゴリが想起され、そのカテゴリと名詞との相互作用から最終的に名詞に適用されるカテゴリが想起されるという2段階カテゴリ化理論を提唱している。それに対し本研究では、W E B 上より共感覚メタファーを収集し、心理実験を用いて共起関係か類似関係かという写像基盤の関係の違いによる認知効果を明らかにする。</p> <p>研究対象とした感覚形容語は、楠見 (1988) の実験で使用された感覚形容語を参考に 48 個を選定した。まず、Google Web APIs を利用し、Perl スクリプトで機械的に共感覚メタファーを抽出した後に実験刺激を選定した。その上で、写像基盤が類似関係、共起関係、共起と類似関係の両方の関係であるか分類し、写像基盤の違いがあることを確認し、さらに、それらの刺激群に対し、＜詩的である - 詩的でない＞＜肯定的である - 否定的である＞＜（感覚形容語の一次的意味が）連想される - 連想されない＞という 3 つの 7 段階の S D 法と連想される単語を記述してもらう心理実験を行った。なお各尺度は先行研究に基づいて立てた仮説を検証できるものを選定した。</p> <p>工学的手法に基づいて分析を行った結果以下のような考察が成り立つ。</p> <ol style="list-style-type: none">1. メタファー表現において、感覚形容語の一次的意味の連想度と肯定的 - 否定的尺度の間には、正の相関もしくは負の相関がみられ、感覚形容語自体の意味が肯定的であれば正の相関、否定的であれば負の相関となる傾向がある。2. 感覚形容語の一次的意味の連想度と肯定的 - 否定的尺度を基にしたクラスタ分析を行った結果、有意に差があるグループごとに写像基盤の違いが確認できた。また、連想度が低く、写像関係が類似に基づくものであると考えられる場合は、肯定的 - 否定的尺度において、元々の感覚形容語のイメージがそのまま強調されるわけではないことが確認できた。 <p>例えば“甘い”に関して言うと、3 つの写像関係があり、1 つ目の連想度が高く肯定的なグループでは、味覚と嗅覚の共起関係で甘いが理解されている。2 つ目の連想度が低く肯定的なグループでは、精神的な快さと味覚としての甘いが引き起こす快い感覚の類似によって理解されている。3 つ目の連想度が低く、否定的なグループでは、味覚の甘いによって身体的な緩みが起こることと、人の行為が完全に遂行されずに緩みの部分を残した状態との間に類似によって理解されている。また、2 つ目と 3 つ目のグループのように、連想度が低く、写像関係が類似と考えられる場合は、肯定的もしくは否定的なグループに分かれる結果となっている。</p>				